

● 本校の背景と目的

◆ 大切に使い続けられてきた現庁舎

現庁舎は昭和11年建築、築76年が経過する、長野県内で最も古い庁舎である。増築や修繕を行いつつ大切に使い続けられてきた。



竣工式の様子



今も当時の雰囲気を残す庁舎

◆ 老朽化・耐震性を機に庁舎建替えを検討

既に76年が経過する木造建築物で、老朽化、耐震性に課題があり、平成23年の東日本大震災、長野県北部地震のような大規模災害への対応を考えると、いつまでも現状のまま放っておくわけにはいかない状況。そこで、財政状況も庁舎に取り組める良好な状態まで改善したことから、今後の庁舎のあり方について研究・検討を始めた。

◆ 伐採適齢期を迎えた林

村内の村有林や地域の森林組合が持つ林では、伐採期を迎えている立木が多く、それらの木を材として有効に活用することも課題となっている。



三区生産森林組合の林



「おてんま」の活動風景

◆ 山とともに生きる文化が根付く朝日村

朝日村は、面積の87%を森林が占める、森林村である。山や森林は、村民になじみ深いものであり、世代を超え村民総出で山の手入れを行う「おてんま」が今なお続いており、山を大切にし、村民にも山とともに生きる心が継承されている。



竣工時から風雨を耐えしのいできた「朝日村役場」の看板

平成24年2月に朝日村の公共建築物・公共土木工事等における地域材利用方針が策定されており、行政自ら木造化・木質化を推進している。

そこで、庁舎建設にあたり、地域の木材の活用した木造化／木質化に向けて、検討を行うこととした。

● 木造化／木質化に期待される効果・魅力

◆ 山とともに生きる文化、大切に使い続ける心の継承

・みなで守ってきた村の山の木を庁舎に利用し、現在の庁舎に負けず、大切に、長く使っていくことにより、山とともに生きる文化や大切に使い続ける心を継承していくことができる。

◆ 木の村のシンボルとしての庁舎

・庁舎を木造化することにより、環境及び循環型社会に配慮した地域のモデルとなる。

・また、村産材を利用することにより、今後、公共施設は元より一般住宅を検討する方に対し、直接触れる、目にする、木の温もりを感じることのできる機会ができ、住民にとっても、村産材利用のモデル的な施設となりうる。

◆ 村内の業者・職人が関わることによる地域の産業の活性化

・朝日村では、山から木を伐り出し、製品となるまでのコストが高く、利用がなかなか進まない状況である。そこで、地元材を使用して木造・木質化することにより、地元の生産関係者に利益還元することができる。

・また木造・木質化にすることにより、大工、工務店など地元の多くの人が関わる事ができる。仕事が生まれることにより雇用の創出も図られる。

◆ 安らぎ・健やかさの創出

・木造施設は、施設に入った瞬間、木の香りに包まれ森林浴に由来するような清々しい気持ちになれる。木は情緒を安定させる精神的な効果も期待でき、来客者に対してやすらぎを与え、事務員にとって事務効率の向上も期待できる。



木造らしい外観
(浜松市豊野協働センター)

内装に木材を用いた例
(浜松市天竜区役所)

● 木造化／木質化における課題と対応方策

◆ コストの増大

・RC造と比較し、建設費が割高になるケースがある。
・また塗装等の維持管理費も定期的が必要となる。
⇒維持管理に村内の業者・職人・村民が関わる仕組みとして地域の活性化につなげる。

◆ 音響・断熱性の確保、構造計算の難しさ

・木造は、上階の床衝撃音が下階に響く、音が拡散して音が届きにくいなどといった音響面や、寒い朝日村では断熱性が課題となる。そのためこれらを設計段階で十分に考慮する必要がある。
・木造建築の場合、RC造や鉄骨造と比較すると構造計算ができ設計業者が限られる。
⇒設計業者選定にあたり、木造設計の経験を評価する仕組みとすることにより、性能を確保する。

◆ 材の使用箇所

・内装に木材を多く取り入れると、疲れる、閉塞感があるといった声もあり、面積に対する木材使用率の検討が必要となる。
⇒設計業者選定にあたり、木の特性を生かしたデザインの考え方を評価する仕組みとする。

◆ 材料調達のスミューム

・木造／木質化の大きな課題は材の確保である。木造／木質化には伐り出し〜乾燥・製材に時間を要するため、施工に先行して早い時期から材の準備を行う必要がある。但し、詳細な設計ができてない段階では使用する材の厚み等も流動的であり、並行して進める難しさがある。



松本広域森林組合と協力して伐り出した材

⇒発注者が設計の進捗にあわせて事前に材を調達しておき、施工者がそれを使う仕組みとする。なお、先行して建設が予定されている保育園の材の調達にあたり、平成24年度「緑の分権改革」(総務省)に取り組み、松本広域森林組合と協力し、伐り出しを行っている。

● 今後の検討課題と検討の方向性

＜設計発注＞ 設計業者選定の評価項目として、木の良い面を生かし、課題面を克服した設計・デザインとなるよう「木を活用した庁舎のシンボル性に対するアイデア」「音響面・断熱性で性能確保に関するアイデア」「構造面でのアイデア」「木造設計の経験」を含めることを検討する。最新の知見を集約してそれを達成する必要があることから、公営型の設計コンペのプロポーザル等の実施を検討する必要がある。
＜施工発注＞ 材は実施設計が完了した部分から発注者が材を調達。施工発注にあたっては、発注者が用意した材を使用することを義務付ける。また地域振興の観点から、地元の施工者を下請けとすることも選定にあたっての評価項目とする。

＜維持管理＞ 木造とすると塗装等の定期的な維持管理が重要となるため、維持管理計画の立案と予算の確保が必要となる。また、庁舎の維持管理にあたっては、地元業者が関わるような発注方式・管理委託方式についても検討が必要である。